

掛川市・大東町・大須賀町任意合併協議会

新市建設計画策定小委員会

第 3 回 委 員 会 資 料

日時 平成 15 年 7 月 7 日 (月)
午後 1 時 30 分 から
場所 大東町役場議会全員協議会室

掛川市・大東町・大須賀町任意合併協議会
新市建設計画策定小委員会第3回委員会次第

日時 平成15年7月7日(月)

午後1時30分から

場所 大東町役場議会全員協議会室

1. 開会

2. 協議事項

(1) 新市の重要な資源特徴について

(2) 新市が抱える重要課題について

(3) 新市の資源特徴を生かしたまちづくりのあり方について

3. その他

4. 閉会

検討資料

1. 新市の重要な資源特徴

(1) 新市全体の資源特徴

自然的資源特徴

1) 県内二大都市の中間に位置

新市は静岡県の二大都市静岡市と浜松市の中間に位置し、企業の営業所や出張所の立地の可能性がある。さらに広域的に眺めると、新市は東京と大阪の中間に位置しており、東西の消費地に対して輸送上効率的な条件を持つ。

2) 南北に長い市域形状

新市は南北に長い市域であり、北側から山地、平地、丘陵地、平地、海岸と地形的な変化が見られる。一つの市内で多様な自然環境を体験することが可能である。

3) 温暖な気候、海岸の西風

新市は温暖な気候であり、農業や余暇活動に適している。さらに海岸線は西風が強い。太陽光や風力といった自然エネルギーの活用にも適している。

4) 約10kmに及ぶ海岸線、砂地

新市南部は遠州灘に面し、約10kmにわたり砂浜海岸が続く。遠浅の海は投げ釣、荒波はサーフィンに適している。砂浜は新しい野外活動の場所としての可能性を備えている。海岸の後背地は砂地栽培に適し、特徴ある農産物が生産されている。

5) 多数の溜池

新市には原野谷川、菊川の2水系がある。農業用水確保のため、溜池が多数あり、親しみやすい水面に恵まれている。

6) 山、平地、海岸に温泉

新市北部の山間地、中央部の平地、さらに南部の海岸線に温泉があり、それぞれ個性ある活用がなされ、新市は「保養」の機能にも恵まれている。

7) 特徴ある農産物

新市は全国一の緑茶の生産地である。この他、砂地を活用して高品質の野菜、果物を生産しており、特徴ある農業が展開されている。

8) 緑に包まれた景観

新市は北部の山間地、中央部の小笠山に緑の拠点がある。さらに全市的に丘陵地に茶畑が経営され、緑にあふれる景観を持つ。

ハード系の資源特徴

1) 広域交通体系に優れる

新市には東名高速道路が東西に横断し、掛川インターチェンジが新市中央部に位置して、広域交通に優れている。さらに国道1号が新市中央部、国道150号が新市南部を横断しており、自動車による交通利便性が良好である。また、新市北部には第二東名高速道路も建設中であり、さらなる交通利便性の向上が期待される。

2) 新幹線停車駅を抱える

新市は東海道新幹線の掛川駅、東海道本線の掛川駅を抱え、鉄道による交通利便性が良好である。

3) 近接して静岡空港が開港

平成18年度の開港を予定している静岡空港は、新市から約20kmの位置である。静岡空港から最も近接した新幹線駅は掛川駅であることから、掛川駅と静岡空港間に人、モノの流動が生じる可能性がある。

4) 有力企業が立地

エコポリスをはじめとして、新市には国内の有力企業、外資系企業が立地している。携帯電話や液晶ガラスに関しては、国内有数の生産拠点を抱える。

5) 拠点的医療機関が立地

新市には病床数450床を抱える掛川市立総合病院があり、地域の拠点的な医療機関として貢献している。さらに大東町には東京女子医科大学看護学部があり、看護に関する人材を全国から集め育成している。

ソフト系の資源特徴

1) 3つの城を持つ

新市には掛川城、横須賀城跡、高天神城跡がある。さらに宿場町や城下町の面影を残す街並みも散在している。こうした歴史的な資源は、「住んでよし、訪れてよしの街づくり」の資源としての可能性を持っている。

2) 報徳の精神

新市は、「勤労」「分度」「推譲」の思想を柱とした報徳の教えが普及した歴史を持つ。モラルの低下や社会経済が行き詰まりを見せている中で、道徳と経済の調和した社会づくりを目指す報徳思想がいま注目されている。

3) 住民参加

新市には、住民の意見を行政に汲み上げる仕組みがあり、また地域活動も盛んである。こうした住民参加をさらに発展させて、住民と行政の協働による街づくりの可能性もある。

4) 生涯学習が普及

新市では生涯学習が全国でも先駆けて実践されている。学習施設も充実し、人材育成が進められている。

5) 外国人が多数居住

新市からは中国留学生教育に情熱を注いだ松本亀次郎を輩出した歴史を持つ。さらに現在では外国人が多数居住し、国際的な交流をしやすい環境がある。

(2) 小笠山を中心とした資源特徴

自然的資源特徴

1) 広大な面積

小笠山は東西約15km(周辺自治体含む)、南北10kmに及び、広大な面積を有する。新市の生態系を支えるとともに、新市を象徴する山である。

2) 谷戸地形

標高264mの小笠山は山全体が丘陵地である。しかし複雑に谷戸が入りこんでおり、広い平地は確保しにくく、面的な利用は山麓に限定することが望まれる。

3) 多彩な自然

小笠山は人工植林によるクロマツと天然のアカマツを主とする森林であり、クロマツ、アカマツが衰退した場所にはシイ・カシ類やコナラなどの樹林が見られる。多数の野鳥や昆虫が見られ、貴重種(オオタカ、ハッチョウトンボ、ムカシヤンマ等)が生息し、自然環境を保全すべき山である。

4) 新市の中心位置

小笠山は1市2町のほぼ中心的な位置にあり、各市町の中心市街地からもほぼ均等の距離である。1市2町の住民にとって公平に利用しやすい場所であり、新市の均衡ある発展に向けて役立つ場所である。

社会的資源特徴

1) 法的規制

小笠山の主要な尾根は主として保安林に指定されており、開発は規制されている。自然観察など森林が持つ多様な機能を尊重した利用が適する。国有林も見られ、国有地の保安林解除には、大臣の許可が必要になる。

2) 広域的な交通利便性

小笠山は東名高速掛川インターや新幹線掛川駅からの交通利便性が良く、新市だけではなく、市外からの来訪者を集めやすい交通条件を備えている。

3) 静岡空港からの交通利便性

小笠山は平成18年度の開港を予定している静岡空港から約20kmの位置にあり、空路によって、全国あるいは海外からの往来の可能性も備えている。

4) エコパ(競技場)の存在

小笠山には総合運動公園「静岡スタジアム・エコパ」が整備されている。大規模なスポーツイベントが開催可能であり、知名度も高い。

5) 自然環境を尊重した活用の可能性

小笠山は新市の中央に位置することから新市の均衡ある発展に役立たせるべきである。豊かな自然環境は保全すべきであり、活用は山麓に限定し、しかも自然環境と調和した利用内容であることが適切である。また、小笠山は広域的な交通利便性に優れることから、広域圏からの集客の可能性を備えている。

2 . 新市の重要な課題

(1) 都市基盤面の重要課題 新市の背骨となる南北軸の形成

道路 - 円滑な南北往来を実現する幹線道路が必要

新市は、東名高速道路、国道1号、150号と東西方向の幹線道路には恵まれている。しかし、市域が南北方向に長い形状にもかかわらず、南北幹線道路は貧弱であり、新市北部と南部との円滑な往来に支障をきたしている。新市の一体性を実現するため、散在する公共施設を利用しやすくするため、あるいは掛川駅、東名高速道路掛川インターチェンジ、第二東名高速道路(仮称)森・掛川インターチェンジへの連絡性を向上するためにも、短時間で南北移動を可能にする南北幹線道路を確保することが必要になっている。

交通 - 交通弱者の容易な移動を実現する仕組みが必要

新市は南北に長く、なおかつ市街地や集落が分散しており、南北方向の公共交通に弱みを抱えている。さらに近年路線バスの廃止や便数の削減により、公共交通の利便性が低下している。高齢者の通院や買物の利便性を向上するため、散在する生涯学習施設や余暇施設の利用を促すためにも、地域特性に応じた交通手段を提供し、交通弱者の容易な移動を実現することが必要である。

情報 - 新市の一体性の醸成に向けた情報ネットワーク形成が必要

新市は広大な面積を有するとともに、新市の中央部には小笠山が位置して1市2町のつながりを分断している。地形的な制約を乗り越え、1市2町が一つの自治体として円滑に融合するためには、地域間の連帯性を強める情報ネットワークを形成することが必要である。庁舎間や公共施設間を情報ネットワークで連携するとともに、日常生活に密着した地域情報を全住民に効果的に伝達し、全住民が地域情報を共有化する仕組みを整え、新市の一体性醸成を促すことが重要である。

開発 - 小笠山に、均衡ある発展につながる機能配置が必要

新市の中心に位置する小笠山は恵まれた自然環境を有しており、これまで開発はなされてこなかった。しかし、小笠山の山麓は広域交通体系に近接し利便性がよく、なおかつ1市2町それぞれの地域からほぼ等距離にあることから、適切な機能を山麓に配置して、新市の均衡ある発展につなげていくことが重要である。

小笠山は、新市北部の山間地から南部の海岸に至る南北自然軸の中心であり、自然環境を尊重し、自然環境を十分に生かせる機能を配置することが必要である。

高次都市機能 - 10万人都市としての高次都市機能の集積が必要

新市の人口（平成12年国勢調査）は、114,328人となる。新市は10万人を超える都市となるが、商業機能（百貨店、大規模商業施設等）、業務機能（企業の支店、営業所等）、研究開発機能（高等教育機関、研究機関等）といった高次都市機能の集積は不十分であり、静岡市と浜松市の中間に位置する中心的都市として発展するよう、高次都市機能を充実させることが必要である。

（2）産業面の重要課題 次代に向けた産業の育成

農業 - 競争力ある農業に進化させることが必要

新市は地形的条件や温暖な気候に恵まれ、水稲、緑茶や海岸砂地を活用した農業に特色を持っている。しかし、農業従事者の高齢化が進み、後継者不足という課題を抱えている。さらに米の生産調整の強化、海外からの低価格の農産物の輸入増加などにより、農業を取り巻く環境は一層厳しくなっている。新市の基幹的産業の一つである農業を、次代に向けて維持発展させるため、人材育成とともに、社会環境の変化に対応した競争力ある農業に進化させていくことが必要である。

工業 - 既存立地企業・地場企業への支援、起業応援が必要

新市には有力企業が立地し、県内有数の製造品出荷額を誇っている。しかし、生産拠点は世界的な視野で移転する時代になっており、長期的な展望のもとに、既存立地企業を新市に定着化させる仕組みを整えることが必要になっている。さらに、新市の経済的発展、雇用機会の確保に向けて、地場企業に対する支援拡充、起業応援制度の拡充が必要である。

商業 - 既存商店街が衰退、地域商業の活路開拓支援が必要

大型店の出店や店主の高齢化に伴い、既存商店街は苦戦している。地域に密着した商店街は、住民の最寄りの買物場所であるとともに、活気あるまちづくりに不可欠な要素であり、維持することが望まれる。大型店と共存できるよう、既存商店街の活路開拓に対して支援することが必要である。

観光 - 観光資源の連携、相乗効果の発揮が必要

新市は森林、海岸、温泉といった自然型の観光資源に恵まれ、さらに城、城跡、街並み、社寺、祭りといった歴史的な観光資源や、大規模な余暇施設も散在している。しかし、観光資源は新市全体に散在しており、資源の連携や個性化がなされていない。地域的に離れた観光資源に対して、相乗効果が生まれる連携方法を工夫し、観光が新市の新たな産業の一つになるよう育成していくことが必要である。

サービス - 交通利便性を生かし、多様なサービス業の立地促進が必要

県内の市町村合併が進むことによって、都市間競争はさらに進展し、生活のしやすい都市、ビジネスのしやすい都市に人や企業が集まることが予想される。生活のしやすい都市やビジネスのしやすい都市になるためには、多種多様な対生活サービス業、対事業所サービス業が集積していることが重要である。新市は静岡市と浜松市の中間に位置し、新幹線駅や高速道路インターチェンジを抱え広域交通体系に恵まれている。加えて生産拠点の集積度合いは、県内でも有数である。こうした条件を踏まえて、さらに新市に人や企業が集まるよう、多様なサービス業の立地を促す仕組みを整えることが必要である。

(3) 生活面の重要課題 豊かさが実感できる生活環境の提供

都市機能の円滑な活用 - 掛川の都市機能の利便性向上

南北幹線道路が不十分であるため、2町の住民から見て、掛川市の主要公共施設、交通施設、商業施設は利用しにくい。掛川市に集積している都市機能に関して、2町の住民が容易に利用できるよう、南北道路、交通機関、施設案内を充実させることが必要である。

田園機能の楽しさ発掘 - 2町の自然・余暇・文化環境の発掘

掛川市の住民から見て、2町が備える海、海岸、余暇施設、街並み、食文化などの楽しさは、明確には認識しにくい。2町の自然環境、余暇環境、文化環境の面白さを引き出すよう環境整備を進め、誰もが楽しさを享受できる仕組みを整えることが必要である。

散在する公共施設有効活用 - 多彩な公共施設の活用と効率化

新市は1市2町の多彩な公共施設を抱えることになる。散在する公共施設を有効に活用して住民の生活を豊かなものとし、さらには効率的な運営に努めることが必要である。

散在する資源の有効活用 - 相乗効果を生み出す仕掛け

新市には城下町や宿場町に関連した歴史的資源や、温泉、集客施設が散在している。しかし、資源相互の連携や、統一の見地に基づく個性化は不十分であり、相乗効果を生み出すには至っていない。散在する資源を束ねて有効に活用することが必要である。

少子高齢化への対応 - 福祉、医療分野の充実

新市においても少子高齢化が進展し、福祉や医療分野で新たな需要が生じるものと考えられる。新市の既設福祉施設、医療施設、医科系大学の活用、相互連携を図るとともに、福祉分野では民間事業者の参入を促し、住民に対して手厚いサービスが提供される仕組みを整えることが必要である。

防災対応 - 東海地震への対応

東海地域は約100年から150年の周期でマグニチュード8程度の大地震が起こっている。1854年の安政東海地震以来約150年も大地震が発生していないことから、東海地震に備えた街づくりをすることが必要になっている。

下水道整備の推進 - 生活排水処理の向上

公共下水道、合併浄化槽、農業集落排水等によって汚水処理がなされている割合である生活排水処理率は、県平均値を下回っている。地域に応じた汚水処理の手法を採用しつつ、水系の水質向上を図ることが必要である。

地域特性の活用 - 異なる個性の充実と連携

掛川市の東部、西部、北部、さらには大東町、大須賀町は、それぞれ地域特性が大きく異なる。新市の地域ごとの異なる個性を大切に、地域相互の連携等によって個性を生かしたまちづくりを進めることが必要である。

3 . 新市の強みを活かしたまちづくりのあり方

新市のまちづくりが目指すべき「将来像」に関して、検討を行っていない段階ですが、上記の「資源特徴」と「課題」だけでは、新市のまちづくりに関して具体的なイメージが把握しにくいと考え、「まちづくりのあり方」に関するたたき台を作成しました。この「まちづくりのあり方」をたたき台としながら、新市のまちづくりの方向性についてご意見を頂戴したいと考えております。

(1) 新市の背骨となる南北軸の形成

南北幹線道路の形成

新市の円滑な往来の実現、新市の一体性の醸成、散在する公共施設の利便性向上に向けて、新市を南北方向に縦断する幹線道路を整備する。

地域特性に応じた交通システムの導入

地域特性や輸送の効率性などを考慮しつつ、庁舎間、主要公共施設を連絡し、交通弱者の通学、買物、通院などに役立つ交通システムを導入する。

南北情報ネットワークの形成

庁舎間や主要公共施設間を情報ネットワークで結び、身近な公共施設から手続き、生涯学習受講などが実現できる情報システムを整備する。

小笠山の山麓に新たな保養ゾーンの創設

小笠山山麓の自然環境を活かし、住民や来訪者に「和み」「癒し」を提供する新しい保養ゾーンを創設する。あわせて新しい保養に関する「人材」「情報」の集積を図り、新しい産業の育成を進める。

高次都市機能の誘致、創設

都市間競争に勝ち、さらに新市の新たな成長産業の育成にも貢献するよう、研究開発機能、業務機能などの高次都市機能を誘致、創設していく。

(2) 新市の次代に向けた産業の育成

健康志向に対応した高付加価値農業の育成

健康志向に関する食品市場動向、健康増進に大きく貢献する農産物の栽培技術、高級食材の流通等に関する情報・技術を蓄積した研究機関との連携を構築し、若者が夢を持てる農業の育成、付加価値の高い農業の実現を図る。

総合的な企業・起業支援による工業振興

新市の企業に対する経済支援、営業支援の拡充、さらには起業支援制度を創設し、新市の工業が持続的に発展する仕組みを整える。

集客力向上による商業の活性化

娯楽機能の誘致、観光機能との連携、既存商業者や新規出店者への支援拡充、情報化による営業力強化、個性的な地場産品の開発、大型店との連携等を進め、商業者・商工団体・行政が協力して集客力向上を図り、商業の活性化を図っていく。

散在する歴史的資源の再生・連携・ネットワーク化による観光振興

掛川城、横須賀城、高天神城、歴史的な街並み等に対して歴史ゾーンを設定し、物語のある環境整備を進めるとともに、散在する歴史ゾーンを連絡する交通システムを導入し、新市の観光振興を図る。

進出支援による多彩なサービス機能の集積

新市に新たな進出を行う事業所に対して支援制度を創設し、新市に多彩なサービス機能の集積される仕組みを整える。

(3) 豊かさが実感できる生活環境の提供

「回遊」を通じた交流ゾーンの形成

新市の海岸、散在する余暇施設、独自の食文化を活用した催事の開催、楽しさを発掘する団体の組織化などを進め、活動の発展を促す環境整備を進めていく。新市の資源を回遊することを通じて、地域資源の価値を再認識し、住民、来訪者が楽しく交流できるゾーンとして魅力を高めていく。

情報システムを活用した利便性の高い公共施設の提供

新市に散在する多彩な公共施設を情報ネットワークで連絡し、離れた場所で実施される講習会、セミナーに身近な公共施設で受講できる仕組みを整える。

「和み」を特長としたまちづくり

新市には歴史的資源、温泉、花を主役にした集客施設、観光農園、茶畑、山、海といった人の心を和ませる資源が集積している。「和み」の特長にさらに磨きがかかるよう、「和み」のルート化、環境整備などを進めていく。

地球環境に優しいまちづくり

太陽光や風力などの自然エネルギーの活用、廃棄物の再利用など、環境負荷の低減につながる仕組みを整え、個性的なまちづくりと地球環境に優しいまちづくりを進めていく。

予防医学やスローフードによる健康都市づくり

拠点的医療機関や医療系研究機関の連携、看護系人材の活用等により、予防医学の充実、介護の充実を進めていく。さらに地域の高品質の食材、緑茶を活用しつつ、「食」スローフードに基づいた健康都市づくりを展開していく。

福祉サービスの充実したまちづくり

新市の既存福祉施設の有効活用、家庭的雰囲気にあふれた福祉施設の拡充、福祉ボランティア活動やNPO活動への支援等を通じて、高齢者、児童、障害者福祉サービスを充実させて、市民が安心して暮らせるまちを実現していく。

災害に強いまちづくり

市街地への公園整備、防災設備の充実、公共施設の耐震性の向上などにより、新市を災害に強いまちにしていく。

報徳の思想に基づいた地域活動の促進

報徳の思想や住民参加が定着している特長を踏まえ、ボランティア活動、NPO活動への支援を充実させ、新たな地域活動を促進する。

情報化先進都市の形成

情報や通信系の有力企業と連携し、学校、地場企業、商店などの情報化支援、情報化に強い人材の育成を進め、新市全体が情報化に対応した先進的都市を目指していく。

地域を支える多彩な人材の育成

優れた経営者、技術者、教育者等との交流機会の充実、住民の学習意欲を促す支援制度の創設、教育文化施設の拡充等を通じて、地域を支える多彩な人材が育つまちづくりを進めていく。

地域の個性に磨きをかけるまちづくり

新市内のそれぞれの地域の個性に着目し、先鋭化や地域間の連携によって個性をさらに生かすまちづくりを行う。「個性化」によって地域活性化の糸口を切り開き、その効果を地域全体に広げるまちづくりを進めていく。